

## 平成18年度第1回倫理審査委員会報告

### ○ 目的

衛生研究所の職員が実施する調査、研究、実験及び実習等が研究対象者の人権配慮、研究内容の説明と同意等、倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成18年8月28日（月）

### ○ 倫理審査委員

委員長	前納 弘武	大妻女子大学社会情報学部教授
副委員長	増田 瑠司	衛生研究所副所長
委員	小嶋 久子	北里大学医学部助教授
委員	尾坂 郭子	生涯学習インストラクター
委員	今井 光信	衛生研究所所長

### ○ 審査対象研究課題

平成18年度研究課題のうち、検査材（人体から採取した血液等の資料）を用いる5研究課題について審査を実施しました。

### ○ 審査項目

1. 研究によって生ずる危険性と学術上の成果の総合的判断
2. 研究対象となる個人又は検査材の提供者の人権擁護
3. 検査材の入手方法

### ○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
1	<b>VNTR 法を利用した結核菌遺伝子型別に関する実際の活用法の検討</b> 結核の集団感染発生時における感染経路および感染源の解明は結核対策に大いに役立つ。その感染源・感染経路の解明を VNTR 法という新しい遺伝子型別法を用いて実施する。現在、基礎的検討を終えて、実際の活用法を検討する段階となった。基礎的研究の検討中に見出されたいくつかの課題について、より精度の高い VNTR 法の確立を図るとともに、喀痰材料を VNTR 法へ直接利用することを検討する。	承認
2	<b>性風俗施設従事者における性感染症罹患率に関する疫学調査</b> 性風俗施設に従事する Commercial Sex Worker(以下 CSW と略す)の性感染症罹患率についての実態把握を主に研究する。CSW はエイズ・性感染症への感染リスクが高い集団であるが、これまでは CSW へのアプローチが難しく、実態把握や予防対策が進んでいなかった。今回、研究協力が得られた性風俗施設に従事する CSW	承認

	<p>および男性従業員を対象に、エイズをはじめとする性感染症検査を実施し、罹患率を調査するとともに、現状把握と予防対策を目的に検討を行う。</p>	
3	<p><b>LAMP法とリアルタイムPCR法によるノロウイルス検出感度、精度などの比較検討</b></p> <p>ノロウイルスを原因とする食中毒や感染症が多発しており、現在ノロウイルスの検査はリアルタイムPCR法や遺伝子の塩基配列の確認などにより行われている。今回新たにLoopamp ノロウイルス G I/G II 検出キット(LAMP 法)が開発された。そこで、従来のリアルタイムPCRとLAMP法について感度、精度などの比較検討を行う。</p>	承認
4	<p><b>リケッチア感染症の地域における実態調査及び早期診断体制の確立による早期警鐘システムの構築</b></p> <p>国内で発症するリケッチア症はつつが虫病と日本紅班熱が代表的であり、いずれも媒介生物によってヒトが感染、発症する動物由来感染症である。これらリケッチア症は適切な薬剤の投与によって治るため、迅速に診断することが重要である。そこで、県内の患者の迅速診断を行い、発生実態の把握を行う。さらに検査データを蓄積することにより、感染を予防するための早期警鐘システムの構築を目指す。</p>	承認
5	<p><b>食物アレルギーの原因食品に含まれるアレルゲンの検出と低アレルゲン化に関する検討</b></p> <p>—水産食品の低アレルゲン化に関する研究— —アレルゲン性を指標とした食情報のデータベース化と食教育への活用に関する基盤研究—</p> <p>食物アレルギー患者の食物アレルゲンを同定し、アレルゲンタンパク質を確認するとともに、原因食品を原料として製造された加工食品や異なる調理法による食品のアレルゲン性について、患者血清を用いて検討する。このことにより、食物アレルギー患者であっても摂取可能な食品を見出すことができ、選択技が広がる。その結果、食物アレルギー患者の治療はもとより、アレルギー患者の食生活の多様性の獲得によって栄養状態の改善のみならず、社会生活における食生活の向上に貢献することができる。</p>	承認